

ネット依存度スクリーニングテストの結果

(静岡県教育委員会社会教育課)

1 テストの概要

実施時期	6月～7月
対象	県内の中学1年生・高校1年生 1,997人 中学校：11校、高校：6校
テストの種類	3種類（Kスケール、IAT、DQ）

2 結果

	生徒数	依存リスク該当者	
		人数	割合
中学校	1,118	366	32.7%
		(中リスク) 322	(中リスク) 28.8%
		(高リスク) 44	(高リスク) 3.9%
高校	879	475	54.0%
		(中リスク) 421	(中リスク) 47.9%
		(高リスク) 54	(高リスク) 6.1%
計	1,997	841	42.1%
		(中リスク) 743	(中リスク) 37.2%
		(高リスク) 98	(高リスク) 4.9%

【依存リスク該当者】

2種類のテスト（Kスケール・IAT）において、中リスク又は高リスクのいずれかに判定された生徒

- ・中リスク：要注意。

ネット・スマホの使い方をもう一度、よく考えなおす必要あり

- ・高リスク：早急な改善が必要。ネット依存傾向が非常に強い。

専門医療機関の援助が必要

<主な傾向>

- ①長時間利用傾向が非常に強い。
- ②ネット・スマホ要因による成績低下を実感しているがやめられない。
- ③高揚感や興奮を得るためにネット・スマホを利用している傾向が強い。
- ④約半数は新しい仲間を作りたがる傾向が強い。
- ⑤依存状況の改善意欲が低く半分にも満たない(問題の深刻さに気付いていない)。

【参考】DQの結果

	ネット依存が疑われる生徒	国 (2017年度)
中学校	71人 (6.4%)	10.0%
高校	121人 (13.8%)	16.1%